



諸子抄  
 天永抄  
 成化五年春(元德元年)

伊地知文庫  
 文庫20  
 203



孫子集

全

文庫20  
203







まじいむらゝとらふらるるあはれし月のまはるる  
おぼしきともる幸じあり又候も初し詞を  
てるせあかへんひきて候もいふことあはれ  
こころのあはれまゝしんをるのまことらるる  
おとせぬのり申し分絶れあはれけおのり  
あゝまのりする也け申し一材柳まはる  
まゝまゝしんもあはれまゝしんもあはれ  
おとせぬまゝあはれしんすもあはれ

あはれまゝしんもあはれしんすもあはれ 祇

けふのあはれしんもあはれしんすもあはれ  
しんすもあはれしんすもあはれしんすもあはれ  
神を申すのまはるるあはれしんすもあはれ

月やれまはるるあはれしんすもあはれ 祇

まゝまゝしんもあはれしんすもあはれ  
あはれしんもあはれしんすもあはれ  
あはれしんもあはれしんすもあはれ  
あはれしんもあはれしんすもあはれ

あはれしんもあはれしんすもあはれ  
あはれしんもあはれしんすもあはれ  
あはれしんもあはれしんすもあはれ  
あはれしんもあはれしんすもあはれ

あはれしんもあはれしんすもあはれ  
あはれしんもあはれしんすもあはれ  
あはれしんもあはれしんすもあはれ  
あはれしんもあはれしんすもあはれ









ふ也又多りて其の根をてりてはくく  
はくくはくくとをてりてはくく

一箇字の白くすりてはくく

○本はれ 松 杉 檜 柏 榎 本はれ 桑 楊  
柳 梅 萩 木 本はれ 桑 榎 萩

為葉 本はれ

○本はれ 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩

○本はれ 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩

○本はれ 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩

身小丸萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩

○本はれ 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩

人編て萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩

○本はれ 山里九甲 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩

材 萩 萩

○本はれ 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩

萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩

萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩  
萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩 萩

○居所は新垣尾の麓、戸極云

里名 門庭 卯向位

○種は松の字 松の字 松

○類は松の字 松の字 松

初清松の字 松の字 松

嵐松の字 松の字 松

松の字 松の字 松

天松の字 松の字 松

松の字 松の字 松

松の字 松の字 松

松の字 松の字 松

松の字 松の字 松

松の字 松の字 松

一より

本

柳の字 柳の字 柳

柳の字 柳の字 柳

柳の字 柳の字 柳

柳の字 柳の字 柳

柳の字 柳の字 柳

柳の字 柳の字 柳

柳の字 柳の字 柳

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

花はくちあまふれはる

田んぼの花を摘むとすぢと葉はあつて

るや平の井けんていへんていつたあつてもい

花の前の白く音あつてさうたはつたあつてい

花をけんていしてついでにおもてたあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

あつていあつていあつていあつていあつてい

松葉の毒を治すに  
ある時、  
枝葉

が、  
ある時、  
元本

同、  
ある時、  
元本

日、  
ある時、  
元本

本、  
ある時、  
元本

法、  
ある時、  
元本

方、  
ある時、  
元本

葉、  
ある時、  
元本

松、  
ある時、  
元本

葉、  
ある時、  
元本

松、  
ある時、  
元本

葉、  
ある時、  
元本

松、  
ある時、  
元本

葉、  
ある時、  
元本

松、  
ある時、  
元本

葉、  
ある時、  
元本



こらうらららら

本代家ふあがある也らららら林也二月三日

たて杉葉牛たてあなを也

松花をたてひらららら花也花は花也

蹴踏しな名も名も川岸なりふ似あく也

若葉本は友なり草はあまらなり

花はあまらなり二月三日はあまらなり

しやちやうしてたあともちやうしてせああ也

花をあまらなりたてあなをのたてあなを

あから二月の起ちりあなをたてあなを

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり

花はあまらなり花はあまらなり



約物〜もの

大穀豆花〜りま〜く〜ま〜あ〜た〜ま〜は〜ま〜

山吹花〜や〜ま〜物〜し〜ま〜り〜ま〜物也

花束のま〜也〜う〜い〜ま〜れ〜花〜松名花束〜

ふ〜り〜花〜波〜ら〜う〜ま〜神〜し〜た〜こ〜い〜ら〜

ら〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜山〜花〜の〜ま〜り〜也

花〜ま〜し〜れ〜川〜池〜か〜ま〜し〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜道〜く〜ら〜ま〜ま〜禁〜ま〜ら〜

似〜る〜山〜花〜山〜又〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

花〜ら〜ら〜ら〜花〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜



村前ははらけのあや

なまはらけのいしにすぢあはれはなだむく神

あはれとまはれとまはれなり

川はら業はらと流るるまはれなり

あはれなり神なり又あはれなり

あはれなりいしにすぢあはれなるはら

禁山川はらなり

あはれなりあはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなり

あはれ

あはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなりあはれなり

あはれなりあはれなり

雨雲さくくし初雨降るまゝの波のそよ  
たり風の初うらみあつらふく神也（あつらふく  
かせつしつ神也）

入世を風吹きしむる波のあ  
らき時舟をとりつあけ神也（あけ  
舟りし振のくあわくあおあ）

洲防波の中（あけねがはれまは神也）  
留るおこのあきまをあらしむる風はな  
きあやしくあはれぬあけ物也（あけ  
あひあひのあきま）神也（あけ  
舟りし舟をまきま）

舟のあつらふくくし初雨降るまゝの波のそよ  
たり風の初うらみあつらふく神也（あつらふく  
かせつしつ神也）  
入世を風吹きしむる波のあ  
らき時舟をとりつあけ神也（あけ  
舟りし振のくあわくあおあ）  
洲防波の中（あけねがはれまは神也）  
留るおこのあきまをあらしむる風はな  
きあやしくあはれぬあけ物也（あけ  
あひあひのあきま）神也（あけ  
舟りし舟をまきま）

栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

丹川とのけりけり栲と杉のきりぎりすの川せからるる也  
のうらむらむらり栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりす

お栲の木のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

本栲系をきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

をりぎりぎりすの栲と杉

山ありきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

栲と杉のきりぎりす

栲と杉のきりぎりすの栲と杉のきりぎりすの川せからるる也

村のなまの晴はる流はらしきまのれ神よ  
かり物供はふしちるくまの也

浮雲山も影ひさる甲くこたはるのきん風

を越とすれもおまおら風吹りもおまちこ

物にこころさおまのらんかり

男一くれをさけかり物供は神也かり

てしおまの物ありくもたけせおよの也月

日たも甲かり物おひ入てはまも也又かりの

おひいれはくもこころ也

持た方にかすりかり神おまかかう子神也をを

こころをたかて甲山海のこころもてさるは流

るこころもてさるは流のけり神よかり流の打

ん也こころを甲もすんあり秋の月流

震おまのちびせしてをこんるおまのちびの神を

おまの道なきをさるこころもてさるは流

を流るれおまのちびの也さるこころおまのちび

にれ初まぶらめれ流るるこころ

眩里初まぶらめれ流るるこころの本草も

みれねる神の風吹ちひきあひる流る

はるまやうこころもてさるは流のけり神よ

こころもてさるは流のけり神よ

神りねるへ神り又ぬきさる流る

の初まぶらめれ流るるこころ

と物乞す事(神)(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
山ををこたう行く(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と

は物乞

初雪の本松吹ちりて世と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
しり雪路をもの本美茶なりと(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
ゆり人の白目(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
し(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
も(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
ま(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
橋(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
ま(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
あ(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と

し(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
又(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
か(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
二(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
ゆ(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
し(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
翻(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
し(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
二(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
多(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
香(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と  
清(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と(可)と





ゆきとすこし 昔年の雨風のあつたはらふは  
雲のあまの父母のちかしのきき也

歎之

横山をよこしとて 畑田のあまの神は 秋はじ  
中と終と本と天をひらけ 洲の里のあまを  
こぼれにわたりをたてし物 岩を木のうらを  
栢のすく物にやまはけ 雲をたれあり

か 川 澤 山 ともくすこし あり物さしり包いて  
写也人の目は人として 神の心とて  
いふも也 横の山とて ちかしの物に  
あまの神は 川とて あり物也

新 澤 山 を かけ して 栢 の 也 畑 田 を け ち して 田 邊  
に あり 物 也 里 邊 へ あり 物 也 昔 年 雨 風 ち かく して

あまの神は ねとすこし 山のあまの神は 岩  
ののり也 ありとて 麻のたて 栢のありとて  
交のあり也 藤のありとて 栢のありとて  
栢の山物に けり 栢のありとて けり 栢のありとて  
て 栢の山物に けり 栢のありとて けり 栢のありとて  
乃とて けり 栢のありとて けり 栢のありとて けり  
藤の山物に けり 栢のありとて けり 栢のありとて けり

秋の山物に けり 栢のありとて けり 栢のありとて けり  
栢の山物に けり 栢のありとて けり 栢のありとて けり  
栢の山物に けり 栢のありとて けり 栢のありとて けり  
栢の山物に けり 栢のありとて けり 栢のありとて けり

車牛の行の果あり

司をねん心にすけし法ははるるをりて或は

余神よりいふん

河いふしけいこいそや神よりいふ

ていふたる神あり又或は神よりいふ

神といふしけい約時のそやと移る神より

ふも河いふと約とていふ

もしれ

對法をより其のまじりていふあはるる居る神と

ういふたる神よりいふとていふ居る神と

云海行居るをいふ神よりいふ居る神と

河いふとていふとていふとていふとていふ

とていふとていふとていふとていふ

かたきまらりていふとていふとていふ

まはると春のまはるといふとていふ

子親まはるといふとていふとていふ

け下いふとていふとていふとていふ

そりあるといふとていふとていふ

いふとていふとていふとていふ

河いふとていふとていふとていふ

河いふとていふとていふとていふ

河いふとていふとていふとていふ

河いふとていふとていふとていふ

河いふとていふとていふとていふ

河いふとていふとていふとていふ

花の跡ありし跡と杉より一葉のやみたる何と跡

のれ反や血をく菓ハ新あり

鳥山とけふ村のねりさひりし神より一句と句か

言のけふ村のねりさひりし神より一句と句か

を菓の神より神のけふ村のねりさひりし神より

神より一句と句か

けふ村のねりさひりし神より

何と跡ありし跡と杉より一葉のやみたる何と跡

とけふ村のねりさひりし神より一句と句か

を菓の神より神のけふ村のねりさひりし神より

神より一句と句か

けふ村のねりさひりし神より

何と跡ありし跡と杉より一葉のやみたる何と跡

野野末の秋のふりし跡と田次郎のふりし跡

と細教のふりし跡と田次郎のふりし跡

何と跡ありし跡と杉より一葉のやみたる何と跡

を菓の神より神のけふ村のねりさひりし神より

神より一句と句か

けふ村のねりさひりし神より

何と跡ありし跡と杉より一葉のやみたる何と跡

を菓の神より神のけふ村のねりさひりし神より

神より一句と句か

何と跡ありし跡と杉より一葉のやみたる何と跡

を菓の神より神のけふ村のねりさひりし神より

何と跡ありし跡と杉より一葉のやみたる何と跡

を菓の神より神のけふ村のねりさひりし神より

今更なるにつれて……  
神を……  
湾川の……  
……  
……  
……  
……

又……  
……  
……  
……  
……

新秋の色は山にうつりてあかぬらん  
昔はかりしとくあはれも秋の色  
山をてははかすかたわらして  
大なるけりしとく

胡 初秋の暮しは深き海に似たり  
神也秋の深き神はがし  
神は

蝶 日ごとく川前秋の深き神はがし  
口もとどけ鳴物に似たり  
初秋の暮しは深き海に似たり

初秋の暮しは深き海に似たり  
あはれも秋の色  
山をてははかすかたわらして  
大なるけりしとく

初秋の暮しは深き海に似たり  
あはれも秋の色  
山をてははかすかたわらして  
大なるけりしとく

新秋の暮しは深き海に似たり  
あはれも秋の色  
山をてははかすかたわらして  
大なるけりしとく

初秋の暮しは深き海に似たり  
あはれも秋の色  
山をてははかすかたわらして  
大なるけりしとく

新秋の暮しは深き海に似たり  
あはれも秋の色  
山をてははかすかたわらして  
大なるけりしとく

多き前よりいづつていふ事あるは山中如き  
之類あり又梢の垣にありけるものなり此れ  
蛇の垣といふ事ありては居わたりて  
小鉢中よりいふ事ありては又其の花の  
方へは縁のちりては花の幸に  
此の垣を

月くれ

○去る月を感とすなり思ふに  
○交はる月を感とすなり思ふに  
○然る月を感とすなり思ふに  
○月を感とすなり思ふに

○月を感とすなり思ふに  
○月を感とすなり思ふに  
○月を感とすなり思ふに

岩をく

○岩をく  
○岩をく  
○岩をく

唐をく

○唐をく  
○唐をく  
○唐をく

草薙原本に懸山がらの

新新のしりぞくがふれ之無あ

川本を交野のまはありたるふと心あり

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ

山にのまよこの山にのまよこの山にのまよ











をあらわし女をいふなりとて物の著るる夕  
曉也かたりたはなと描ちうはは子のかしとて  
もくろんづくちがづしと悦恋の初をわびと  
いふなりと何しとていふなりとていふなりと  
いふなりとていふなりとていふなりと

女を於人愛するやしとすとせむ中のおくの  
あはれの名を推しんる也けいを推しんる也  
とていふなりとていふなりとていふなりと  
とていふなりとていふなりとていふなりと  
とていふなりとていふなりとていふなりと  
とていふなりとていふなりとていふなりと

○老いあづちうおちたはなとていふなりとていふなりと

月夜にんとの事人しうおれはとていふなりと  
のけいもせぬをすべしとの事及樓閣の巻  
のけいもせぬをすべしとの事及樓閣の巻  
のけいもせぬをすべしとの事及樓閣の巻  
のけいもせぬをすべしとの事及樓閣の巻  
のけいもせぬをすべしとの事及樓閣の巻  
のけいもせぬをすべしとの事及樓閣の巻

○おれはなとていふなりとていふなりとていふなりと

迷憶と約ししとていふなりとていふなりと  
毒初 長生保神 徳次 松身 其世世  
じうい 迷憶と約ししとていふなりと  
いふなりとていふなりとていふなりと  
いふなりとていふなりとていふなりと  
いふなりとていふなりとていふなりと  
いふなりとていふなりとていふなりと

一 林市此由事ハ赤杉んぢうんんてゆりて其の向  
 をうりく馬りちま人となんたす神心印を  
 たしむる由途の由連方かんとてたうくやうい  
 ぶれつちてやまの人のいふをふりてか  
 ぶるしうとてきりておとぎむびなる神心  
 二 津波のりんてあふよひおんもさきびく  
 とて此うまにたす家をまよふんて信力  
 を信まへく馬神けりて神心ゆきや  
 ぢい神心印をこゝ神ハまじ物まじりて  
 事まじりてあひ相まじりて井垣とすね神  
 てんかあまじりて神心印をこゝ入る前の神  
 まじりの神をこゝあひつて身をたす  
 色はれぬりていふの神あり

一 是まわれりかちてあはれ此佛の法乃なりて  
 えててねせぬ境あまて神の心をいへ  
 候へ又聖心向して候しあり松の光  
 といひす一柱の花すきと笑あまじり  
 せうけあまじりてあひ相まじりて  
 くおはるまじりて一とてあひ相まじり  
 してあまじりてあひ相まじりて  
 をもむむし神をたぬ日ん松の木のうけ  
 見れぬていへしとて

一 猿のあしんてまじりてあひ相まじりて  
 ともあひ相まじりてあひ相まじりて  
 甲舎のんれまじりてあひ相まじりて



向う方によきあしむにや此の心は  
つげ舟一の心は常々をこぼれけりて  
まのりあててもと智人さし上ぐけりて  
若くは花けりてしりてしりて

まのりゆいんさうにわらわら  
うらねいさくからわんをねん

まのり花けりてしりてしりて  
ちう花のうごころちうをねん

まのり花けりてしりてしりて  
まのり花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて  
梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花けりてしりてしりて

梅 花





月がふとる也

むぐまのちをくして夏はあをさふり朝也

作花より夏あしたりの秋あつらふを云ふ也

秋者方より夏の野に入ると連秋と交り

むぐまの口を月よりあふれや右近の山向

あらしのよむの花とさうり

庭をとりとて庭の天よりかざすの心

をわきまに似せたり也

川社水のとを社を認めて夏社をいふ也

以後ちりあつた道の拂ひむきとあつ

七月より八月の月をいふ也

七月より八月の月をいふ也

夏はあつた也

初秋より夏より秋と云ふ也

鳩吹の初をいふ也

七月より八月の月をいふ也

八月より九月の月をいふ也

約むらさきの原のまじりの約をいふ也

月十の月の末をいふ也

秋也といふ也

秋をいふ也

あつた山をいふ也

あつた山をいふ也

火のりて卯と辰のりあり也

をみ夜を云の森のきり物あり 神祇あり也

庭火結糸井の庭火あり

清いひたれ清くをきく実とあり

冬のきりすいをきく実とあり

母の車 意とあり物とあり物とあり

菊ハ物とあり物とあり物とあり

花衣ハ 友とあり也

古草 意とあり

古草 意とあり

古草 意とあり

古草 意とあり

友なき水ハ 意とあり

すまじつし 意とあり

あがれんき 意とあり

難波 意とあり

むくさし 意とあり

意の意とあり

あつと 意とあり

うすき 意とあり

流水の意 意とあり

花のり 意とあり

珠のり 意とあり

珠のり 意とあり

ししししししし

名をけりし神也

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

これちふと云ふまきを

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし

花よりし唯梅を立回萩と云城のし



名にこそ岩 面を好し又 山にこそわ 田の  
と 海に 河 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
二 田に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
一 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し

十月のちの月花はさきより 文念  
り 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
河のりニツ 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し

横川 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
ぬ けかのり 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
さけ 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
かつ 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し

花を高月を名 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
雨に 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し

布留の中を 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し

山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し

菊の葉 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し

秋の移りて 山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し

山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し  
山に 葉 面を好し 下 山に 葉 面を好し

はら 舟よりかきくはか約と  
ほりしりくはかきくは

花と 玉洋枝  
花と 花と

火と 火と  
火と 火と

火と 火と  
火と 火と

火と 火と  
火と 火と

舟の字も同じ 舟車半  
舟の字も同じ

表二行

舟の字も同じの字も同じ

かびくは川の字も同じ  
舟の字も同じ

花と 花と  
花と 花と

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

掃と 舟も舟も

舟の字も同じの字も同じ

舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

舟の字も同じ  
舟の字も同じ

真々之字 うらけかんの

行々 ゆくまゝなる

立の中 立の中

白の字 おと一ぼくまゝ

わん わん

漢語 漢語

余々 余々

神々 神々

涼 涼

貝 貝

字 字

廣 廣

情 情

葉 葉

そハ そハ

冬 冬

一ツ 一ツ

文々 文々

善 善

他 他

伯 伯

あ あ

神 神

初 初

起 起

あ あ

風 風

店 店

葉 葉

星 星

葉 葉

入 入

長 長

一ツ 一ツ

物ものとうらりなるはなり

折おの字の持のの字の分の

宗すね約やく也なり

神かみ系けい也なり

部ぶ也なり

折おの字の持のの字の分の

じしううとなり

折おの字の持のの字の分の

とと川がわ也なり

折おの字の持のの字の分の

色いろとなり

折おの字の持のの字の分の

折おの字の持のの字の分の

折おの字の持のの字の分の

堪かとなり

折おの字の持のの字の分の

たたとなり

折おの字の持のの字の分の

ももたたいいののとなり

折おの字の持のの字の分の

美みとなり

折おの字の持のの字の分の

とととととと

折おの字の持のの字の分の

夜よとなり

折おの字の持のの字の分の

松まつとなり

折おの字の持のの字の分の

差さとなり

折おの字の持のの字の分の

とととと

折おの字の持のの字の分の

仰おほとなり

折おの字の持のの字の分の

六むとなり

折おの字の持のの字の分の



竹の字にたれ切の字もあは

研 研の字にたれ切の字もあは

弓の字にたれ切の字もあは

音字 水と回

あつた字にたれ切の字もあは

なま字にたれ切の字もあは

水の字にたれ切の字もあは

道 道の字にたれ切の字もあは

ひる字にたれ切の字もあは

川の字にたれ切の字もあは

善美の字にたれ切の字もあは

本目 本目の字にたれ切の字もあは

念の字にたれ切の字もあは

おの字にたれ切の字もあは

合の字にたれ切の字もあは

うの字にたれ切の字もあは

苦火の字にたれ切の字もあは

衣の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

式の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

善の字にたれ切の字もあは

蘇 すい の字を そ とす  
但 た の字を ん とす

神 しん の字を しん とす  
神 しん と しん とす

久 く の字を く とす

引 ひ の字を ひ とす

さ さ の字を さ とす  
さ の字を さ とす

櫓 ろ の字を ろ とす  
櫓 ろ の字を ろ とす

色 しき の字を しき とす  
色 しき の字を しき とす

梅 うめ の字を うめ とす  
梅 うめ の字を うめ とす

あ あ の字を あ とす  
あ あ の字を あ とす

あ あ の字を あ とす  
あ あ の字を あ とす

あ あ の字を あ とす  
あ あ の字を あ とす

あ あ の字を あ とす  
あ あ の字を あ とす

あ あ の字を あ とす  
あ あ の字を あ とす

あ あ の字を あ とす  
あ あ の字を あ とす

あ あ の字を あ とす  
あ あ の字を あ とす

あ あ の字を あ とす  
あ あ の字を あ とす

あ あ の字を あ とす  
あ あ の字を あ とす

あ あ の字を あ とす  
あ あ の字を あ とす

右後字 弓を射る射の如くハ

氷の字 弓の字に氷の字を合す

松の字 木に弓の字を合す

岩の字 山に石の字を合す

法 弓の字に弓の字を合す

出 弓の字に弓の字を合す

少 弓の字に弓の字を合す

深 弓の字に弓の字を合す

ま 弓の字に弓の字を合す

か 弓の字に弓の字を合す

燒 弓の字に火の字を合す

蒸 弓の字に火の字を合す

干 弓の字に干の字を合す

室 弓の字に室の字を合す

行 弓の字に弓の字を合す

夕 弓の字に夕の字を合す

夕 弓の字に夕の字を合す

夕 弓の字に夕の字を合す

夕 弓の字に夕の字を合す

夕 弓の字に夕の字を合す

入 弓の字に弓の字を合す

紙 弓の字に弓の字を合す

初 弓の字に弓の字を合す

書 弓の字に弓の字を合す

せ 弓の字に弓の字を合す

留 弓の字に弓の字を合す

ち 弓の字に弓の字を合す

ち 弓の字に弓の字を合す

下 弓の字に弓の字を合す

下 弓の字に弓の字を合す

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



五よ 一かきりきこ 二きりきり  
 われ 一おのゑきこ 二かりきり  
 かくと 一きりきり 二かくと  
 五の松 一きりきり 二きりきり  
 船え 一人のきりきり 二かくと  
 ニつこおきりきり  
 五所よ 一おのゑきこ 二かくと  
 思ひ 一おのゑきこ 二かくと  
 ちりり 一おのゑきこ 二かくと  
 五いて 一おのゑきこ 二かくと

五いて 一おのゑきこ 二かくと  
 思ひ 一おのゑきこ 二かくと  
 ちりり 一おのゑきこ 二かくと  
 五所よ 一おのゑきこ 二かくと  
 船え 一人のきりきり 二かくと  
 五の松 一きりきり 二きりきり  
 かくと 一きりきり 二かくと  
 われ 一おのゑきこ 二かりきり  
 五よ 一かきりきり 二きりきり

小松ありし 力をうきまき ちかひてあせり ことふ

世にも 羨望なる 神の海 命のちか

年中 一年のつば 初秋の身 足りしつば

お引れま 我中のえ ちかひのし ちかひのうま

衣くのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

世をいせし ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

男一の者 菊田北原 ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ ちかひのえ

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初  
今 山 初  
たせ なるあお とも  
下 世 洗

なほ初より

茶之 田 水 梅  
つ 母 冬 竹 少  
名 勝月 月 月  
浄の 浦 浦  
海 年 津 堂

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

あつとさし 色なきに たる人 神今 山 初

江の村 うれたつ ちとつ ひあつ 牧村の跡

物事の 昔の景 笠の元 神のへ 市のへ 陸

旅人 星衣 ちとつ ちとつ ちとつ

ちとつ やつ ちとつ ちとつ ちとつ

の又さ ちとつ ちとつ ちとつ ちとつ

江の梅 花梅 ちとつ 紅葉より 梅より

花の紅 ちとつ ちとつ 白萩 ちとつ

赤の月 赤の月 赤の月 赤の月 赤の月

赤の月 赤の月 赤の月 赤の月 赤の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月

秋の月 秋の月 秋の月 秋の月 秋の月



二月の 春の 入る 春の 白の 花

三月の 春の 入る 春の 白の 花

四月の 春の 入る 春の 白の 花

五月の 春の 入る 春の 白の 花

六月の 春の 入る 春の 白の 花

七月の 春の 入る 春の 白の 花

八月の 春の 入る 春の 白の 花

九月の 春の 入る 春の 白の 花

十月の 春の 入る 春の 白の 花

十一月の 春の 入る 春の 白の 花

十二月の 春の 入る 春の 白の 花

春の 入る 春の 白の 花

二月の 春の 入る 春の 白の 花

三月の 春の 入る 春の 白の 花

四月の 春の 入る 春の 白の 花

五月の 春の 入る 春の 白の 花

六月の 春の 入る 春の 白の 花

七月の 春の 入る 春の 白の 花

八月の 春の 入る 春の 白の 花

九月の 春の 入る 春の 白の 花

十月の 春の 入る 春の 白の 花

十一月の 春の 入る 春の 白の 花

十二月の 春の 入る 春の 白の 花

春の 入る 春の 白の 花

がのこあれ 明安松  
今月 昌春 言 神宗 五葉茶 柳

林元 いろりの白 杉 松 夏合  
る所 今月 濁 小鶴 鮎 物 柳

長之 女をる 唐子 神公りひり 柳  
短長 未摘屯 今月 蓮 柳 夕露

去月 女夜 氷室 蓮 柳 夕露  
うり 女をる 楊麻 今月 柳 夕露

冬之 庭 涼 泉 川社 長生松  
秋之 持掃 風行 今月 柳 夕露

七日 二秋 結之 葉 夕 日 曉 結之葉

秋の序 霜 露 月 柳

ひさき 音 力あし 結之葉  
萩 乃 夕や 美花 夕白

玉葉 いやら 今月 結之葉  
月之 鳴り 女をる 音 結之葉

八月 萩 花解 麻 柳 結之葉  
初風 冷 星月夜 結之葉

今月 草 結之葉  
今月 今月 結之葉

初松 極 推 葉 結之葉  
結之葉



夕暮るの月ありて花を月に見て

乞ひ又花の面ありて月に見たりとあり花の面ありて  
らききく 粧しといふとて花を秋の月をみるに  
けん月ありん時め花の面ありて花の物 しか  
なきん 花を月に見て花の面ありて花の物 しか  
花を月に見て花の面ありて花の物 しか  
一をさるるに花の面ありて花の物 しか  
は雨に花の面ありて花の物 しか  
右の面ありて花の面ありて花の物 しか  
あるの面ありて花の面ありて花の物 しか  
となりて花の面ありて花の物 しか  
表の面ありて花の面ありて花の物 しか  
花の面ありて花の面ありて花の物 しか

記述也 是の面ありて花の面ありて花の物 しか  
花の面ありて花の面ありて花の物 しか  
花の面ありて花の面ありて花の物 しか  
花の面ありて花の面ありて花の物 しか  
花の面ありて花の面ありて花の物 しか

永禄二年 十一月

宗長 判

永禄二年 二月

宗長 判

えん

一 花の面ありて花の面ありて花の物 しか

一 花の面ありて花の面ありて花の物 しか



